

宇都宮大学のEPUUが2013年度の 大学英語教育学会学会賞の実践賞に

EPUUは、「地方にあつて予算規模も少なく、制約も様々ある国立大学においても、共通教育の英語教育をここまで改革できる」ということを示したモデルケースだと思います。プログラムとしてはまだまだ更なる開発の余地がありますが、2009年以来的取組が一つの形になってきた結果が、今夏の受賞につながったようです。昨年あたりから、国公私立を問わず、施設見学や授業参観

にみえる大学も増えていきます。

教員、カリキュラム、施設それぞれに特徴がありますが、最大の特徴は国立大学では初の准専任制度。《嘱託講師》と呼ばれる7名の任期付教員が、3名の常勤の教員を支えている点です。20歳から30歳代を中心に、英語圏での滞在期間が長いことに加えて、外国の大学でTESOL (Teaching English to Speakers of Other Languages、また

はSTA)を取得したことを条件に採用しています。学生と年齢も近く、プログラムの特徴である学生目線に近い授業が行えるだけでなく、教材や教授法の開発にもそのフレッシュな感覚を活かしています。

本学の1年次生対象の英語は、1学年1000人弱を成績順に4レベル(工学部のみ5レベル)33クラスに分け、週2回日本人教員、週1回外国人教員が担当しています。日本人

教員のクラスは専任・准専任担当率100%です。授業はlistening 及び speaking 能力の向上を重視し、全クラスとも週1回はCALLラボで行います。3回とも、様々なアクティビティを駆使して、可能な限り学生が英語でコミュニケーションをする機会を増やしています。

専任3名、准専任7名が毎週1回運営委員会を開き、仔細に至るまで報告や相談を合せて進めています。そのためか、学生の授業評価は1000人平均4.74(5.00満点)、1年修了時のTOEICスコアは入学時より平均46点上昇と、徐々に目に見える成果も出始めています。

常勤、非常勤あわせて11名のネイティブ教員も協力的です。2年次生対象の選択必修科目(週1回)の大多数の授業や、入学時にTOEIC650点以上取得した学生を対象としたHonors Programは、これらのネイティブ教員によって実施され、教育効果を上げています。

EPUU全体を貫くテーマは《浴びる英語》ですが、それを実現するために、EPUU



国立大学法人
宇都宮大学
基盤教育センター
副センター長・教授
江川 美知子先生

Profile

青山学院大学、南伊利ノイ大学卒業。南伊利ノイ大学大学院修士課程、同博士課程修了。学術博士(高等教育学)。専門は、大学における英語教育および国際理解教育。女子聖学院短期大学教授、聖学院大学教授を経て、2007年10月より現職。東京都立三田高等学校出身。

Other Languages、また

プログラムの運営は、

その使用を日常の授業に採り入れることにより、効果を上げています。

日本の多くの大学が、グローバル人材育成を旗印に留学生の送り出しに躍起になる中、全学生を対象に、そのベースとなる“使える英語”を身につけさせようという地方国立大学の取組に注目が集まっている。宇都宮大学のイーブー (English Program of Utsunomiya University [EPUU]: 基盤教育英語プログラム)で、今夏開催された大学英語教育学会 (JACET※) 第52回国際大会 (8月30日～9月1日 於: 京都大学)では、開設以来の責任者で索引役の基盤教育センター副センター長の江川美知子教授に学会賞 (実践賞) が送られた。受賞理由は、《宇都宮大学の総合的多面的英語教育改革の計画、実施、評価に関するすぐれた貢献》。江川先生にEPUUのユニークさについてお聞きした。

※日本の大学の英語教育を支える教員による国内最大の組織。



きたいと思っています。